

JIS

情報技術 — 文字符号の 構造及び拡張法

JIS X 0202 : 1998

(ISO/IEC 2022 : 1994)

(2003 確認)

(2008 確認)

平成 10 年 1 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって、JIS X 0202 : 1991は改正され、この規格に置き換えられる。

この改正では、国際規格との整合性に主眼がおかれた。

JIS X 0202には、次に示す附属書がある。

- 附属書A (規定) 文字レパートリ及びその符号化の外部参照
- 附属書B (参考) エスケープシーケンスを用いる文字集合のISO国際登録簿
- 附属書C (参考) ISO 2022の第3版(1986年)と現第4版との主な相違点
- 附属書D (参考) 参考規格

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 50.3.1 改正：平成 10.1.20

官報公示：平成 10.1.20

原案作成協力者：財団法人日本規格協会

審議部会：日本工業標準調査会 情報部会 (部会長 棟上 昭男)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部情報電気規格課 (☎ 100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1) へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文.....	1
第1章 一般.....	1
1. 適用範囲.....	1
2. 規格に対する適合性.....	2
2.1 適合の種類.....	2
2.2 情報交換の適合性.....	2
2.3 装置の適合性.....	2
2.3.1 装置の記述.....	2
2.3.2 送信装置.....	2
2.3.3 受信装置.....	3
3. 引用規格.....	3
4. 定義.....	3
4.1 ビット組合せ.....	3
4.2 バイト.....	3
4.3 文字.....	3
4.4 符号化文字データ要素, CCデータ要素.....	3
4.5 符号化文字集合, 符号.....	3
4.6 符号拡張.....	3
4.7 符号表.....	3
4.8 結合文字.....	3
4.9 制御文字.....	4
4.10 制御機能.....	4
4.11 指示する.....	4
4.12 装置.....	4
4.13 エスケープシーケンス.....	4
4.14 終端バイト.....	4
4.15 図形文字.....	4
4.16 図形記号.....	4
4.17 中間バイト.....	4
4.18 呼び出す.....	4
4.19 レポートリ.....	4
4.20 表現する.....	4
4.21 利用者.....	4
5. 記法, 符号表及び名前.....	4
5.1 記法.....	4

5.2 符号表	5
5.3 文字の名前	5
第2章 文字集合及び符号	5
6. 文字及び文字集合	5
6.1 文字及び文字集合の種類	5
6.2 固定符号化文字	6
6.2.1 DELETE (削除) 文字	6
6.2.2 ESCAPE (エスケープ) 文字	6
6.2.3 SPACE (スペース) 文字	6
6.3 符号化図形文字集合	6
6.3.1 符号化図形文字集合の種類	6
6.3.2 符号化図形文字集合の内容	8
6.3.3 図形文字の結合	8
6.3.4 符号化図形文字集合の情報源	9
6.4 符号化制御機能集合	9
6.4.1 符号化制御機能集合の種類	9
6.4.2 符号化制御機能の基本集合	9
6.4.3 符号化制御機能の補助集合	9
6.4.4 符号化制御機能の情報源	10
6.5 符号化単独追加制御機能	10
6.5.1 標準単独制御機能	10
6.5.2 登録単独制御機能	10
6.5.3 私用制御機能	10
6.5.4 符号化単独制御機能の情報源	10
7. 8ビット及び7ビットの符号の要素	10
7.1 要素の概要	10
7.2 文字集合符号要素	11
7.3 文字集合符号要素の呼出し	11
7.4 符号化符号識別機能	12
7.5 図形文字の一意的符号化	12
8. 8ビット符号の構造	13
8.1 8ビット符号の符号表の配列	13
8.2 符号の要素及び構造	14
8.3 シフト機能による図形文字集合の呼出し	14
8.3.1 LOCKING-SHIFT ZERO~LOCKING-SHIFT THREE	14
8.3.2 LOCKING-SHIFT ONE RIGHT~LOCKING-SHIFT THREE RIGHT	14
8.3.3 シフト状態	15
8.3.4 ロッキングシフト機能の相互作用	16
8.4 シフト機能による単独図形文字の呼出し	17
8.5 制御機能集合の呼出し	17

8.5.1	符号要素C0の呼出し	17
8.5.2	符号要素C1の呼出し	17
9.	7ビット符号の構造	18
9.1	7ビット符号の符号表の配列	18
9.2	符号の要素及び構造	18
9.3	シフト機能による図形文字集合の呼出し	19
9.3.1	SHIFT-IN, SHIFT-OUT, LOCKING-SHIFT TWO及びLOCKING-SHIFT THREE	19
9.3.2	LOCKING-SHIFT ONE RIGHT~LOCKING-SHIFT THREE RIGHT	20
9.3.3	シフト状態	20
9.3.4	ロッキングシフト機能の相互作用	20
9.4	シフト機能による単独図形文字の呼出し	20
9.5	制御機能集合の呼出し	20
9.5.1	符号要素C0の呼出し	20
9.5.2	符号要素C1の呼出し	21
10.	実装の版及び水準	21
10.1	版	21
10.2	符号構造機能及び文字集合の識別	21
10.3	実装水準	21
10.3.1	8ビット符号	21
10.3.2	8ビット符号の水準の限定	22
10.3.3	7ビット符号	22
11.	8ビット符号と7ビット符号との間の変換	23
11.1	8ビット符号から7ビット符号への変換	23
11.2	7ビット符号から8ビット符号への変換	23
第3章	符号識別及びエスケープシーケンス	24
12.	符号識別機能	24
12.1	符号識別機能の目的	24
12.2	エスケープシーケンスとの関係	24
13.	エスケープシーケンスの構造及び用法	24
13.1	エスケープシーケンスの構造	24
13.2	エスケープシーケンスの型	25
13.2.1	型の指示	25
13.2.2	nF型のエスケープシーケンス	25
13.2.3	4F型のエスケープシーケンス	26
13.2.4	要約	27
13.2.5	エスケープシーケンスの記法	27
13.3	エスケープシーケンスの特定の意味	29
13.3.1	終端バイトの登録	29
13.3.2	この規格で定義する終端バイト	29
13.3.3	私用	29

14. 図形文字集合及び制御機能集合の指示	29
14.1 指示機能	29
14.2 制御機能集合の指示 (CZD, C1D)	30
14.2.1 目的	30
14.2.2 C0の指示	30
14.2.3 C1の指示	30
14.3 図形文字集合の指示 (GnDm, GnDMm)	30
14.3.1 目的	30
14.3.2 仕様	31
14.3.3 複数バイト集合の大きさ指定	31
14.4 動的再指定可能文字セット (DRCS)	32
14.4.1 目的	32
14.4.2 仕様	32
14.5 登録文字集合の改訂番号の識別	32
14.5.1 目的	32
14.5.2 仕様	32
15. 符号のアナウンス及び切換え	32
15.1 提供する機能の概要	32
15.2 符号構造機能のアナウンス	33
15.2.1 目的	33
15.2.2 仕様	33
15.3 符号化方法のデータ区切り符号 (CMD)	37
15.3.1 目的	37
15.3.2 仕様	37
15.4 他の符号化システムの指示 (DOCS)	37
15.4.1 目的	37
15.4.2 仕様	37
附属書A (規定) 文字レパートリ及びその符号化の外部参照	38
附属書B (参考) エスケープシーケンスを用いる文字集合のISO国際登録簿	41
附属書C (参考) ISO 2022の第3版 (1986年) と現第4版との主な相違点	42
附属書D (参考) 参考規格	43

情報技術—文字符号の
構造及び拡張法X 0202 : 1998
(ISO/IEC 2022 : 1994)Information technology—Character code
structure and extension techniques

序文 この規格は、1994年に第4版として発行されたISO/IEC 2022, Information technology—Character code structure and extension techniquesを翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある“参考”は、原国際規格にはない事項である。

第1章 一般

1. 適用範囲 この規格は、文字集合の符号化のための8ビット符号及び7ビット符号の構造を規定する。この構造の符号要素は、8ビット符号及び7ビット符号で共通とする。この符号は、基本的な8ビット及び7ビットの符号の機能を拡張するために各種の方法を用いる。

8ビット符号が最近広く利用されていることから、規格のこの版は、前の版に比べて8ビット符号を強調する。

8ビット及び7ビットの符号構造の共通要素を使用することによって、簡単でかつ直接的な方法で、適合する8ビット符号を等価な7ビット符号に、又はその逆方向に変換できる。

ISO/IEC 4873は、ここで規定する8ビット符号の構造に適合し、ISO/IEC 646は、7ビット符号の構造に適合する。

参考 JIS X 0221 (ISO/IEC 10646-1) で規定する符号化文字集合は、この規格の規定とは別の構造をしている。

この規格で規定する符号構造機能は、符号で使用できる制御機能及び図形文字の数を拡張する各種の方法を含む。さらに、特定の符号の定義を組み立てて形式化する技術、その構造の符号化及びそのような符号の構成要素を識別する技術を含む。

特定の符号は、ISO 8824に従って、オブジェクト識別子で識別されてもよい。このオブジェクト識別子は、**附属書A**で規定する。

これらの8ビット及び7ビットの符号で用いようとする個々の文字集合及び制御機能は、ISO 2375 (**附属書B**参照)に従って、ISO国際登録機関に登録されたエスケープシーケンスを使用する符号化文字集合とする。登録は、個々の文字集合及び制御機能と符号化表現との関連付けの詳細及びその文字集合の符号化の識別を含む。

この規格で確立した原理は、補助符号構造機能を作るために用いてよい。例えば、JIS X 0211は、パラメタ化した制御機能を形式化するために、このような手続を用いている。

ここに示す8ビット及び7ビットの符号の一つの形式による符号構造技術の使用は、次の利点をもつ。

- 情報処理システム設計における符号構造に対する同一の形式での規定を可能にする。
- 合意された文字集合の呼出しの標準化された方法を提供する。
- 8ビット及び7ビットの文字集合を用いる環境間で相互のデータ交換を可能にする。